

付属資料10(2)

CPDポイント取得シミュレーション(アンケートに基づく実態想定)

分類 番号	分類	CPDアイテム	CPDポイント	条件	単位ポ イント	モデル社員が可能な回数(回/年)						CPDポイント						備考
						研究者		設計者		施工者		研究者		設計者		施工者		
						A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	
						経験 15年	経験 3年	経験 15年	経験 3年	経験 15年	経験 3年	経験 15年	経験 3年	経験 15年	経験 3年	経験 15年	経験 3年	
技術情報収集など	技術士会共通講習受講		6 H/回	6	1		1		0.5		6		6		3			
	学術講演会、技術講演会、セミナー、オープンカレッジ等の聴講		6 H/回	6	1	1	1	1	1	1	6	6	6	6	6	6		
	受験講習会等の受講		6 H/回	6			1		1				6		6			
	初級技術者研修会の受講		6 H/回	6			1		1				6		6			
	見学会参加		4 H/回	4	1	1	1	1	1	1	4	4	4	4	4	4		
	社会人博士課程・修士課程履修		720 H/回	720														
	社会人夜間大学履修		60 H/回	60														
企業内研修およびOJT	企業内研修プログラム受講	H	3 H/回	3	1	3	1	3	1	3	3	9	3	9	3	9		
	OJT(プログラムが明示されていること)			5			1		1				5		5			
自己学習	専門書・学会誌購読・通信教育等自己学習	H	2 H/回	2	12	12	12	12	12	12	24	24	24	24	24	24		
業務経験	APECエンジニア要件対象業務相当の実務経験	-																
	成果を上げた業務等(責任者)	20		20	1		1		1		20		20		20			
	同上(担当者)	10		10		1		1		1		10		10		10		
研究・技術成果報告	原著論文・技術報告掲載(査読付、単著・筆頭著者)	40	1人	40	1						40							
	同上(査読付、筆頭以外の連名著者)	20	2人	10		1					10							
	シンポジウム等論文(概要による査読付、単著・筆頭著者)	10	1人	20														
	*上記を外国で口頭発表した場合の加算	20%加算																
	シンポジウム等論文(概要による査読付、筆頭以外の連名著者)	5																
	シンポジウム論文の口頭発表	0.4M	15分	6														
	*上記～論文が外国語の場合(単著・筆頭著者)の加算	20%加算																
	論文梗概(単著・筆頭著者)	5	2人	2.5														
	同上(筆頭以外の連名著者)	2																
	論文梗概による口頭発表	0.4M	15分	6														
情報提供・技術指導	技術解説記事執筆	2/頁	2頁	4														
	技術図書の執筆	2/頁	4頁	8														
	技術講演会、講習会等の講師、シンポジウムパネラー	10		10														
	技術講演会、講習会、学術講演会の座長・司会	5		5														
	学協会研究委員会等委員	H	2 H/回	2	6	6					12	12						
	学協会研究委員会等委員長・主査・幹事	2H																
	原著論文査読・図書原稿査読	H	2 H/回	2														
	応急危険度判定等専門知識による社会貢献活動	2H																
	*上記～を外国語または外国での活動の場合の加算	20%加算																
	講師	社内研修会等の講師	2H	1 H/回	2	1		1		1		2		2		2		
大学での非常勤講師		2H																
受賞・資格取得・その他	受賞(空・衛学会賞等)	20																
	空・衛学会設備士	20		20														
	関連資格・学位取得	20																
	特許出願(受理)	20を連名者で配分	2人	10	1	1					10	10						
	上記以外で、CPDに値すると判断されるもの	適宜判断																
合計											127	85	65	70	62	70		

注)・技術士CPDコースのポイントは、技術士会規定による。
 ・経験3年クラスでは空・衛学会設備士資格取得可能であるが、初級技術者講習会と見合いとした